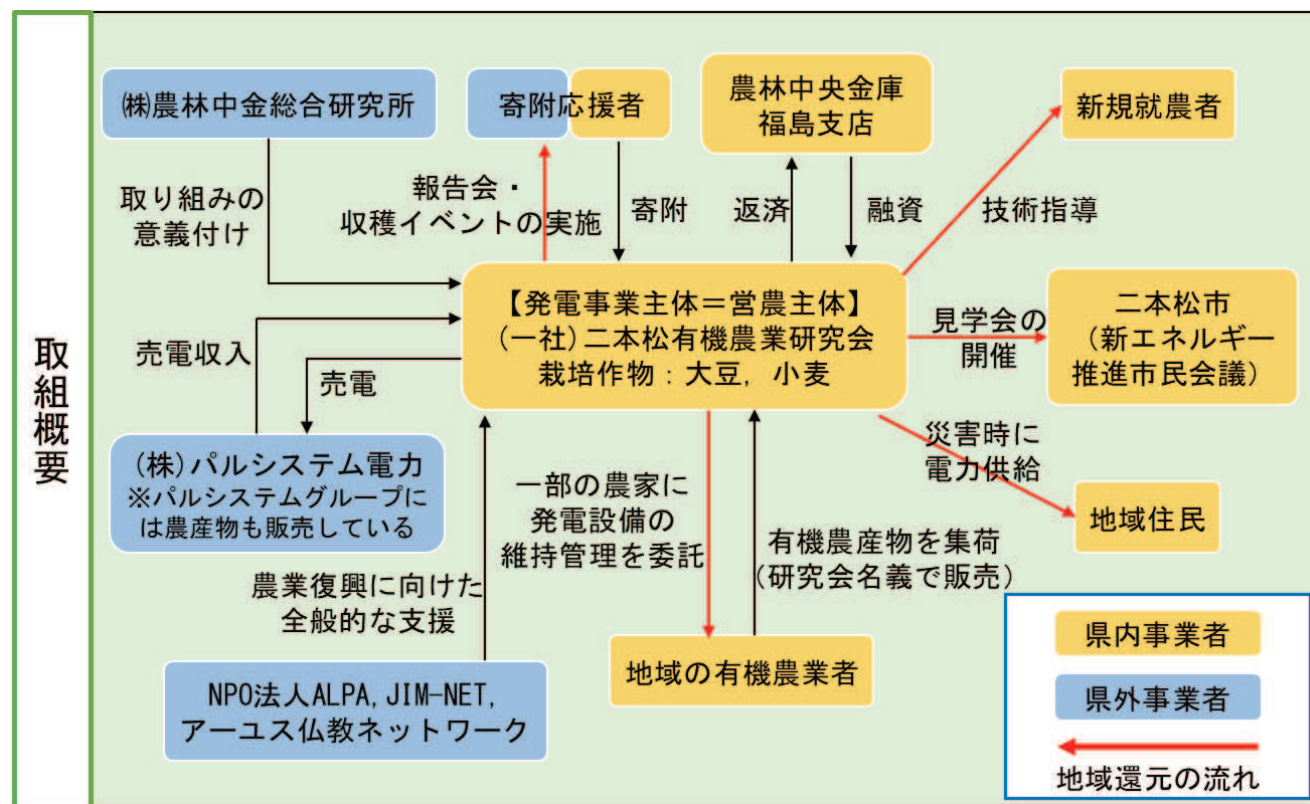


【営農型太陽光発電：一般社団法人二本松有機農業研究会】 有機農業者が取り組む再生可能エネルギー事業による農業復興

- ✓ 福島県二本松市にて有機農業に取り組む農業者団体が、東日本大震災の原発災害をきっかけに、再生可能エネルギー事業を通じた農業収入の回復に取り組む事例。農林中央金庫福島支店が融資をしており、農林中央金庫として営農型発電事業に対する融資の第一号案件となった。
- ✓ 営農型太陽光発電事業への取り組みを始めるにあたり任意団体を法人化し、発電事業を行うと共に、農産物の価値向上・差別化や新規就農者への支援を行っている。



写真提供：一般社団法人有機農業研究会

所在地	福島県二本松市
発電事業主体	一般社団法人 二本松有機農業研究会
発電所名	二本松市中里293-2発電所
電源種別	営農型太陽光発電
発電容量	AC49.5kW／DC69.3kW
運転開始時期	2018年8月24日



有機農業者が取り組むエネルギーの地産地消と農業復興

地域の農業の特色

- ✓ 以前から有機農業に取り組む農家が多い地域である。
- ✓ 2011年東日本大震災における原子力発電事故により、土壌の放射能汚染や消費者離れの被害を受けたが、二本松有機農業研究会を中心に、有機農法的土づくりによって安全な野菜の生産を再開することができるようになり、現在も多くの農家によって有機栽培が行われている地域である。

二本松有機農業研究会が取り組む農業の概要

- ✓ 二本松有機農業研究会は、昭和53年に農協の生産部会として結成され、長年有機農業に取り組んできた。そして2016年に法人化し、有機農産物の生産・販売と、営農型発電事業を行っている。
- ✓ 同社が生産する農産物は有機JAS規格品として、福島市や郡山市の直売所や有機農産品の卸業者等に販売されている。



【[電源種別][事例番号]

有機農業者が取り組むエネルギーの地産地消と農業復興

取り組みのポイント①

➤ 営農型太陽光発電事業に取り組み始めた背景・きっかけ

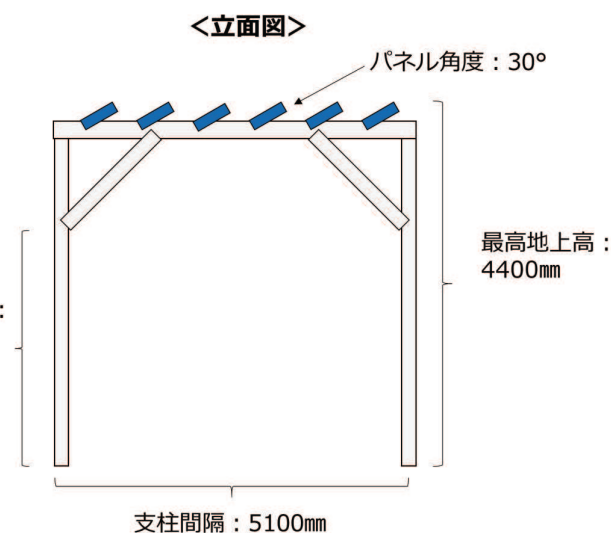
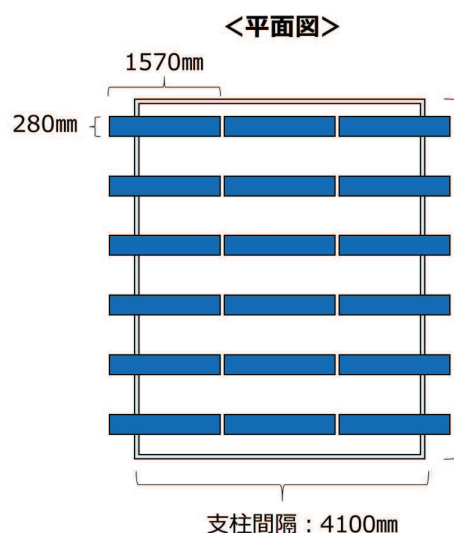
- ✓ 東日本大震災の原子力発電災害をきっかけに、エネルギーの地産地消の重要性を感じ、取り組みを始めた。

➤ 取り組みを始めて苦労したこと・困ったこと

- ✓ （完工前）二本松市で初めての営農型発電の事例であったため、農地一時転用許可の取得に難儀した。
- ✓ （完工前）許可取得後も、部材調達の遅れや真夏の建設作業（自社にて組立工事を実施）といった苦労の末、完工に至った。
- ✓ （完工後）発電事業に対する地域住民からの評価はまだ定まっておらず、理解を得られるように取り組んでいる。

発電設備の仕様

支柱間隔	5.1m×4.1m
最低地上高	2.8m
パネル傾斜角	30°
遮光率	29.4%



➤ その他の特徴

- ・設備は土地の形状に合わせて南西向きで、東西および南北に傾斜した土地のため、傾斜に対応した架台設計としている。
- ・設備下は34馬力のトラクターで支障なく作業ができる空間を確保。

有機農業者が取り組むエネルギーの地産地消と農業復興

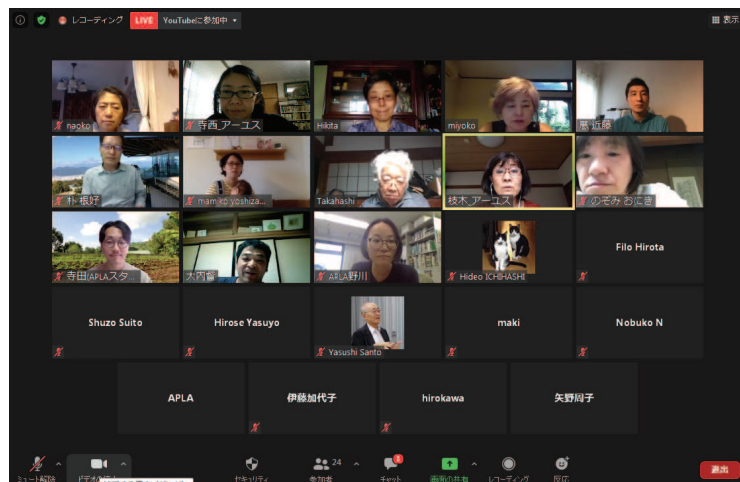
取り組みのポイント②

➤ 営農型太陽光発電事業による地域への効果

- ✓ 売電収入を活用し、発電設備の自立運転機能を整備。今後は災害等による停電時に地域への電力供給を行うことを計画している。
- ✓ 二本松市が主導する『再生可能エネルギー100%にむけた二本松市新エネルギー推進市民会議』と連携して見学会を催すなど、地域の再生可能エネルギー普及に向けた取り組みを推進している。

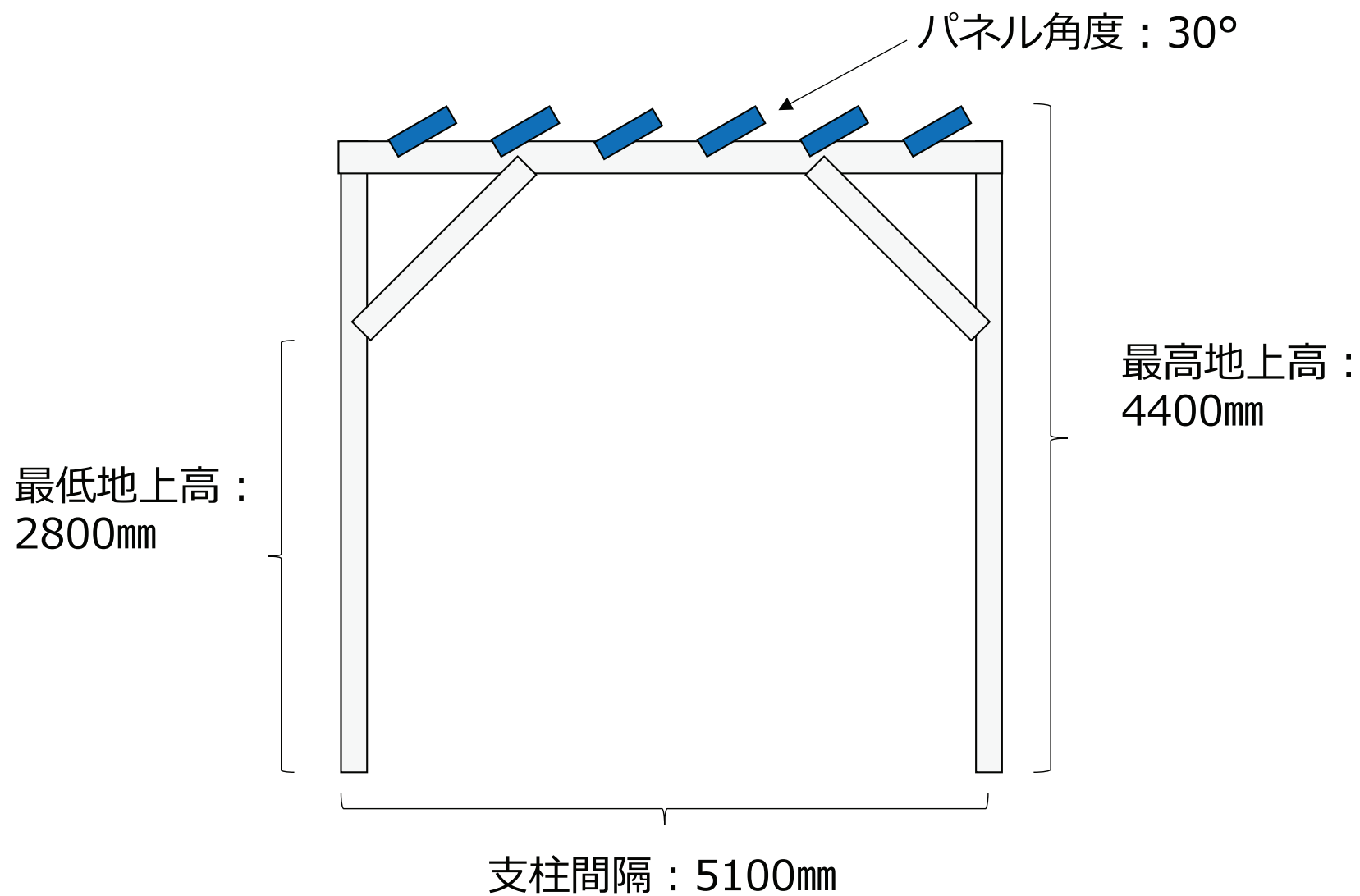
➤ 今後の展望

- ✓ 継続して新規就農者の育成を行っていく。
- ✓ 発電設備を災害時に有効活用できるよう、行政等と災害協定を結んでいく。
- ✓ 農産物の配送車で電気自動車を使用するなど、できるところから農業の電化を図っていく。
- ✓ 震災被害のあった地域として、安心安全な食とエネルギーの供給にむけて今後も研究・実践を継続していく。



立面イメージ図：二本松有機農業研究会

<立面図>



立面イメージ図：二本松有機農業研究会

<平面図>

